

## 普及活動情勢報告（令和3年3月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

### 国際水準GAPのステップアップ ～GAP指導員による現地指導～



倉庫内の整理整頓指導

3月5日、環境保全型農業直接支払交付金（以下、環直）に取り組んでいる農家に対し、普及所のGAP指導員が現地指導を行いました。国際水準GAPの取組が環直の要件となって3年目であり、倉庫内の機械や資材は効率的に配置されていました。農家からは「毎年、新たな取組を行うのに苦労する」との意見がありましたが、現地指導を通じて来年度の取組項目について確認することが出来ました。普及所は来年度以降もGAP指導員による現地指導を通じて、農家の経営改善を図っていきます。

### ミョウガの収穫最盛期に向けて ～ハウスミョウガ部会目慣らし会～



目慣らし会の様子

3月8日、JA高知県興津園芸部ハウスミョウガ部会の出荷目ならし会が開催され、ミョウガ農家約60名が参加しました。普及所からは、今年の春先の温度管理について情報提供を行い、栽培管理の注意点を喚起しました。参加した農家からは「平年より温度が高いので、ハウス内温度を見ながら早めにサイド換気をする」「いつも以上に病害虫の観察をしたい」との声があり、意識の変化が見られました。普及所は今後もJA営農指導員と協力し、ミョウガの安定生産を支援していきます。

### SAWACHIの始動に向けて ～IoP教室の開催～



IoP教室の様子

3月17日、JA高知県四万十支所中ホールで、IoPクラウド実証農家を対象にIoP教室を開催し、14名が参加しました。農業イノベーション推進課や（株）NTTドコモと連携し、IoPクラウドの概要の説明やアカウント登録を行い、実際に使用できる状態になりました。参加した農家からは、「警報機能やハウス画像を見られるのは安心できてうれしい。」「自分の出荷量を早く見たい。」等このシステムに期待する意見を多く頂きました。普及所は、今後も関係機関と協力し、IoPプロジェクトの推進を行っていきます。

道の駅の看板商品ができました ～企業組合であいの里～



商品レイアウトの指導を受ける部員

道の駅四万十大正であいの里では、今年度県の6次産業化推進事業を活用し取り組んだ新商品「四万十大正しっとりケーキ」が完成し、アドバイスを受けた専門家を招き、3月2日に最終チーム会を開催し、商品のレイアウトや今後の販売に向けて検討しました。

地域特産のユズや酒粕、塩など7種類の味で、一本売りやそれぞれの味の詰め合わせもできます。この手作りの味を大正地域の新しいお土産として、他の道の駅や町外への販路拡大を目指しています。

普及所は、今後も6次産業化サポートセンターを活用し専門家を招くなど、関係機関と連携して6次産業化を推進していきます。